



ハチは毒どくをもっているの

毒どくをもたないハチもいる

ハチがみな、毒どくをもっているわけではありません。カリウドバチのように、獲物えものをとらえるとき、動けなくする毒どく(ますい薬やく)を注射ちゅうしゃするハチもいます。獲物えものの青虫あおむしなどに卵たまごを産みつけ、卵たまごからかえった幼虫ようちゅうが、生きたえさを食べられるよう、ますい薬やくを注射ちゅうしゃするのです。

集団しゅうだんのハチが、こわい

人がさされた場合ばあいを考えたとき、ハチの毒どくでこわいのは、スズメバチ、アシナガバチ、西洋ミツバチなどです。これらのハチは、集団しゅうだんで大きな巣すを作つくっています。1ぴきのハチをおこらせることをすると、そのハチの興奮こうふんした羽はねの音おとなどで、いちどに巣すからたくさんのハチが飛び出だしてきて、大群たいぐんにおそわれます。そのため、体からだのあちこちをさされ、ショック死しする例れいが多いので、こわいのです。

ハチにさされたら

ハチの毒どくは、成分せいぶんが複雑ふくざつで、まだ、わかっていないことが多いようです。でも、一か所しょさされたくらいなら、あわてなくてもだいじょうぶです。西洋ミツバチは、さされたとき毒針どくばりがちぎれて体内たいないに残のこるので、毒針どくばりをぬきとって、抗ヒスタミン剤こうの薬ざいをぬっておきます。さされたときは、まず、水みずで毒どくを洗い流ながし、冷たい湿布つめで冷しやしておきましょう。

気があらく、体からだも大きいスズメバチにさされたときは、危険きけんですから、お医者いしやさんにみていただくほうがいいでしょう。(監修・中山 周平)

